

自分の好きなものを工作している。



ア
メ
リ
カ
便
り

秋山ちえ子

の旅行を続けております。

今、アイオワシテイにきていますが、日本をたつて、頂度五十日目です。

各地で、各種の学校や、家庭裁判所、少年審判所、女囚の刑務所、P・T・A、テレビ放送局、美術館、工場、スラム街などと、方々歩いております。

機会あるごとに nursery school kindergarten を見ております。

何と云つても、財政的に日本とはケタ違

ィヤトルをふり出しに、ワシ

ントン——フィラデルフィヤ——
——ニューヨーク——オルバニー

(ニューヨーク州の首都)——パ

ツファロー(ナイヤガラの滝がある)——デトロイト——シカ

ゴ——アイオワ(農業地帯)——

——デンバー——バトンルーチュ
(ルイジアナ州)——ワシントン

——ボストン——サンフランシ

スコ——ハワイ——東京と、こ

んなコースで、アメリカ合衆国

いの国ですから、これ等の施設などは、タ
メ息が出そうなどころばかりです。

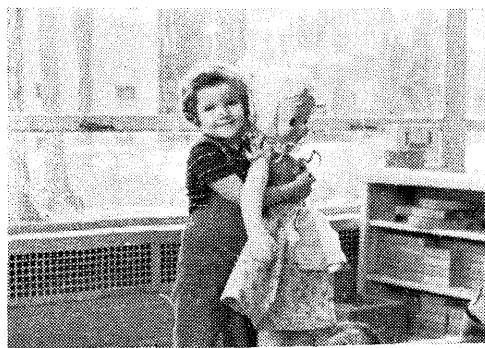
どこに行つても、お茶の水の附属幼稚園

ぐらい、いやもっと豊富な人手と、ゆとり

を持って、のびのびと、幼児の自発性を、
徹底的に尊重した保育が続けられていま

す。先生方の数は今までみたところでは二

十人に正式の保母さんは一人ですが、いつ
も大学の心理学や保育学の人たちが五人は



。子供たちは自分の家より自分の要求をみたしてくれる
いろいろのものがあるのを喜んでゐる。

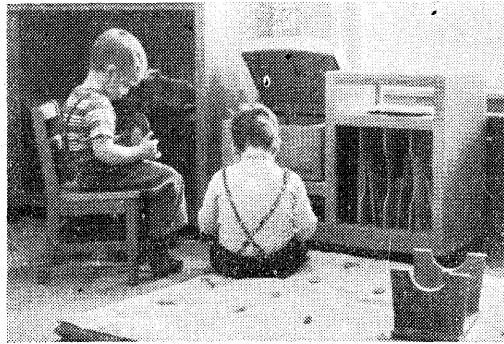
きているので、三人に一人ぐらいの割で先生がいます。

余り専門的な見方は自信がありませんが見たまま、聞いたままをお伝えします。

① 園舎。日本では、幼稚園といえは、家庭よりむしろ小学校に近い感じですが、こちらでは、廊下があって、その両側もしくは片側に保育室が、ゲン然とひかえているようなところは、殆どみかけません。普通の家をそのまま、家中、子供の遊び場にしたようなところが多く、子供たちは、部屋にはいるなり、ひとまず緊張するといったことはなく、むしろ、自分の家より、自分の要求をみたしてくれるいろいろのものがあるいいところへきたような感じになるだろうと思います。日本のワクにはめられた感じの園舎が味けなく思い出されます。

② 備品。椅子とテーブルは、茶色のものであるという定義が日本にあるのでしょうか。アメリカの幼稚園や保育所ではピンクやコバルトやクリームや白い、明る

い色の椅子や机をよくみかける。夢の中に生活する時間の多い幼児の生活する幼稚園や保育所にこんなたのしい椅子や机



このようなマットが大へんよく利用される。

が用意されているのではないかと思いましたが。

それから、小学校や中学で体操の時によく使うマットが、大へんよく利用され

ています。子供たちはマットの上に足をのばして、先生から本をよんで貰い、音楽のレコードをききます。ゴロゴロころがってふざけています。nursery schoolではこの上でお昼寝もします。こちらの幼稚園での生活を日本の場合と比較しますと、日本の幼稚園では、子供たちが、ゴロリとする時間が何と少いことだろうと思います。

これは疲労とも随分関係があるのではなとかいいます。

③ お遊戯の時間

アイオア大学の附属幼稚園で「自由保育の時間と、集団保育の時間の割合はどのくらいになっていますか」と聞いたら、主任の先生がへんな顔をしました。なかなかわからないので「皆を集めて、歌を歌ったり、お遊戯をしたりする時間です」と註釈を加えましたら、皆が一つの場所に集って何かする。何かこちらから教えようとすることは一回もありませんとの話でした。

子供たちの動きをみていて、三人、四人の小さいグループが出来た時、レコーダをきかせたり、お遊戯をしたりするのはあるようですが、集会といった形式ばったことは何もない。これが幼児期の自然の形ではないでしょうかとの返事でした。

この話をきいている時に、お茶の水の幼稚園の子供たちが、祭日などに小学校や中学生と一緒に、講堂の最前列に坐って、モゾモゾガサガサしてついに前の方にとび出してしまふ恰好と、先生方がハラハラしている様子が思い出されてきました。それと、十七、八年前の倉橋先生の保育学の御講義が今でも少しも古いものではないことをしみじみと感しました。日本は大体、義理人情や形式的なことが尊ばれますが、子供にまで、年令不相応の形ちばかりの何ものかを要求し過ぎはしないでしょうか。幼児の場合お遊戯の時を例にとっても、そうわないのがあたりまえで、キチキチと訓練されて拗う

のが不自然であることを認めるお母さんたちが何人あるかと思うと淋しくなりました。

④ 手技。ハンドペインティングを盛にやっています、日本と殆ど変わりませんでし



よう。面白いと思っただのは、絵を描く時に、紙を机の上に平において描くのは、ハンドペインティングだけで、その他は、四つ切の紙を背の高さ位の所に斜めにたてかけて、立ってかきます。ビニールの可愛いエプロンをかけた子供が前のほうにおいた絵の具のつばに太い筆をズボリといれ、腕を大きく動かしてのびのびと絵を描いている姿は、本当にたのしそうで、ほほえましいものでした。

ハンドペインティング

粘土の代りに、メリケン粉³と食塩¹の割合にまぜたものに好きな色粉をいれ、水をいれて、うどんをつくるようにねったドロップ⁴というものを盛に使っています。これは、手にふれる感じがとてもいいし、着物をよごす恐れも少しいし面白いと思えました。メン棒や、空カンでウドンをつくる時のようにのば

して、思い思いに小鳥や花や動物の型を打ぬいてたのしんでいました。

終ったあと、またまるめて、ボールにいれ、ぬれ布きんをかけておくと、一週間は十分使えるそうです。

この他、子供たちは木片をいれた箱から、いつでも木を持ってきて釘をうったり、のびのびと幼児なりの生活をたのしんでいます。

この他に、戦後、特に保育のメソッドで変わったことがあるかと聞いたのに対しては、「余りないが、大きい物の考えとしては、平和を保つためには、世界中の人が理解しあうことが必要だが、子供たちも、誰でも外国の人でも好きになるようにし度いというようなことが、保育の根本的な考え方の中の一つとなったことなどだろうとも云っていました。

僕のことでも、あれこれと質問してみましたが、僕は大部分が家庭でされるものだから、命令でなく、子供たちのまわりの社会からうける影響が一番強いものだから、

まず大人が立派な生活をしなければ……と聞いていました。お客様の前で、上手に挨拶も出来ない子供でも「さあ、ねる時間ですよ」といわれると、どんな面白いことをしていても、誰がきいていても「おやすみなさい」と云って自分でねどこに行くことは出来ず。これはどの家に行ってみても見るといっていくらよくしつけられています。

ぬいだ洋服は、お父さんもお母さんもみんな自分でしまう家に育った子供たちは、そのことが、あたりまえのこととして生活の一部になっています。「片づなさいよ」といって、子供の手のとどかないようなところに、ハンガーをひっかける釘があったりしないようにと、こんなことに大人たちはよく気をくばっています。

もっと、御便所のことなどありますが、郵便代が高くなりそうですからやめます。パンフレットも一緒に送ります。

お茶の水のことを考えると、とりたてて参考にもなりません、日本全体の幼稚園



のことを思うと、やはりクメ息が出ます。